

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.177

2014/08/27

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

天然更新試験地今年の植生調査完了

14/08/13



獣害防止ネット内

獣害防止ネット外

天然更新試験地の今年の植生調査は、7/23～8/13の間で5日間実施しました。昨年までは10日前後を要していましたが、調査の要領にも慣れ1区画の調査人数を2～3名とすることで能率を上げることができました。上の画像からも明らかなように防獣ネットの有無が森林再生の大きな違いを生じています。天然更新試験



植生調査(14/08/13)

地には、四六時中訪れた動物を記録できるビデオが設置してあります。右の画像は、その動画の一部を切り取った静止画です。ほぼ毎日数頭のシカが防獣ネットの無い側では昼夜の区別なく採餌に来ていることがわかります。



昼夜を問わず天然更新試験地に来るシカ



中央湿原防獣ネット(14/08/14)

湿原にも防獣ネットを張りましたが、その必要性は天然更新試験地でのシカの動きをみると必要不可欠です。天然更新試験地では、イノシシの食害はありませんが湿原ではイノシシのことも考えネット以外に波板を設置しています。この効果は絶大です。ただ設置後毎日ネットが破られていないか、強風で倒れていないかを巡視する必要があります。一人で全部の防獣ネットの巡視をすると半日仕事になります。この作業をいつまで誰がするかは大きな課題です。

前号で付属湿地のオオミズゴケの中には虫類の卵が見られたが、ニホントカゲかニホンカナヘビかは不明であると書きました。その後沢道の老杉の下のチップの中に同様の卵が見つかりました。採取して缶の中にチップを入れ孵化を待ちました。その結果ニホンカナヘビであることが判明しました。



ニホンカナヘビの卵(14/08/13)



缶の中で孵化を待つ



採取した3個とも孵化(14/08/18)

一方 4月7日の作業中に復元北部湿原の水路で見つかったヒダサンショウウオの卵囊を孵化まで追跡できる



4月7日に見つかったヒダサンショウウオの卵



砂で埋まった北部湿原奥の沢



作業中に見つかったヒダサンショウウオの幼体

ように現地で観察を続けたが結局腐敗してしまいました。卵囊を発見するまでに紫外線等で痛んでいたか、観察のため置いておいた場所の水流条件が悪かったことが考えられるが、いいチャンスを逸しました。8月11日北部湿原奥の沢の浚渫作業を行っている時四季の森との境界部でヒダサンショウウオの幼体が見つかりました。上流部から出水時に流されてきたものと思われます。昨年もこの地点では確認されています。



度重なる北部湿原への土砂流入防止作業は、2009年から実施しているが今回が最も大規模な作業となった。

北部湿原土砂流入防止作業(14/08/23)

【食害は、草本・木本類に限りません】 天然更新試験地の実情をみれば、草本・木本類の食害の甚大さは一目で理解できますが、森の中ではキノコもまた食害の対象になっています。キノコの食害によって胞子の飛散が減少することで生物多様性が失われることにもつながります。



キアミアシグチ



タマゴタケ



ベニグチ